災害時の情報通信

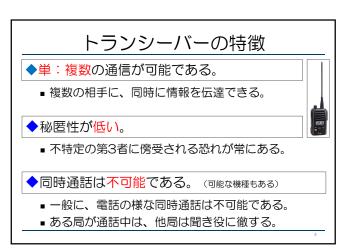
トランシーバー実習

災害現場での「情報」の重要性

★情報を制する者は災害を制す

★情報伝達の失敗が現場活動の失敗につながる









トランシーバーで伝える

送信ボタンを押して、ひと呼吸置いて から話始める。

=頭切れ防止のため。

話すときは、送信ボタンを 押し続ける。

トランシーバーで伝える

無線用語を適切に使用すべきである。

■「**どうそ**」 次は受信者が話せ

■「以上」 通話終了

■「**了解**」 了解した

トランシーバーの使用法

具体的通信方法

• 通信を開始する時は、感度試験も併せて行う。

「本部、本部、本部」

「こちらは」

「〇〇病院チーム」

「感度はいかがですか?」

「どうぞ」

具体的通信方法

感度試験への返答例。

「本部」

「から」

「〇〇病院チーム」

「感度良好です。 」

「どうぞ」

具体的通信方法

・ その後の通信では、自分と相手のコールサインを適宜告げながら通信する。

(同一チャンネルを持つ局が複数あるため)

「〇〇病院チーム」

「から」

「本部」

「現場救護所に医療チーム1

隊の追加派遣を願いま

す。」

「どうぞ」

具体的通信方法

返答では通信内容を正しく理解した証として、 復唱が重要である。

> 「本部」 「から」

「〇〇病院チーム」

「現場救護所に医療チーム1隊の追加派遣の件、了

解。」

「どうぞ」

具体的通信方法

 通信の終了時は、<u>通信を開始した側</u>が、 「以上」と告げて終わらせる。

「〇〇病院チーム」

「から」

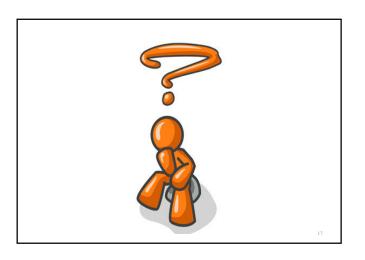
「本部」

「以上」

トランシーバーでの通信例



②医療チームをさらに2隊、至急応援要請



トランシーバー実習



